

西要寺だより

第113号 令和6年3月11日



今回の「西要寺だより」では、昨年11月に富山に行ったという話、新年会の報告などの話をします。

●信仰心に触れてきました

まず、昨年11月に富山に行った話をします。富山には令和4年12月に国宝に指定された浄土真宗のお寺があります。高岡市の勝興寺（しょうこうじ）です（右 写真）。



写真の下の地図は富山県全体です。地図の左の方、赤く丸で囲っているところが高岡市です。本堂などの建築には本願寺の宮大工さんが関わっていて、建物の随所には装飾彫刻が施されています。装飾彫刻といえば、井波の彫刻が有名なのですが（井波は高岡市より南の方）、ここ勝興寺でも彫刻の見事さにはただ感動するばかりでした。江戸時代後期に建築された本堂ですが、檀家の方や近隣の方々の「信仰心」を感じました。富山はもともと「真宗王国、越中」と言われていますから。



そこで「信仰心」についてです。お寺の本堂は今生きている私たちだけのものではありません。私たちの先祖も本堂で手を合わし、如来さまの慈悲のこころを感じて、心安らかな気持ちになっていかれたことでしょう。さらには、これから先の子孫も手を合わせて心を落ち着かせる場であって欲しい、という願いを込めて、今の本堂の整備をしていくのです。「信仰心」とは、如来の慈悲をありがたいと感じていく心ですが、それは自分だけでなく、子孫にも感じてもらいたいという思いも含まれ、「信心」ともいいます。

日本の仏教は大乗仏教です。「大乗」とは「大きな乗り物」ということで、自分だけでなく他人も同じく乗り物に乗って安らかな境地（さとり境地）に至りましょう、ということなのですから。

少し難しい話になりましたが、実際にお寺の彫刻が素晴らしいのです

よという話をしますと、それじゃあ、一度、行ってみようかなと思うことでしょう。本堂というものはそういうものです。西要寺の本堂にも是非、お参り下さい。

●本堂の軒を支える天邪鬼（あまのじゃく）

天邪鬼（あまのじゃく）ってご存じですか。天邪鬼とは、性質が素直ではなく、人に逆らう者のことで、それって私ですと言われる方もいらっしゃるかもしれません。本来は、民間説話に多く登場する想像上の妖怪で、神や人に反抗して意地が悪く、さらに人の心中を探り、その姿や口真似を得意とするところに特徴があり、最後には滅ぼされるという悪者です。そのような天邪鬼は人に嫌われてます。人に嫌われるということは孤独になります。たぶん寂しい気持ちでしょう。だから余計に天邪鬼から抜け出すことが出来ないのでしょうか。そのようなどうしようもない悪人、孤独だな寂しいなという思いを持ちつつ、だけどもそこからどうしても抜け出すことのできない者のために、阿弥陀さまは救いの手を差し伸べてくださっているのです。そのような如来のお慈悲の心に触れたときに、天邪鬼は嬉しかったことでしょう。その嬉しい気持ちを、どのようなかたちで阿弥陀さまに恩返ししたらいいのか、ということで本堂の軒を支えているのではないか、と思うことです。皆さまも私もそういった天邪鬼のような存在ではないですか(笑)。如来さまのお慈悲に触れて安らかな心をいただきましょう。



●西要寺一道会新年会のご報告

1月13日（土）12時から西要寺一道会新年会を久しぶりに開催しました。令和2年以来の開催です。

12時からお食事（弁当）をいただいたあと、アトラクションとしまして、八房流花橘の会 宇都宮正子様ほか6人の方々によって皿回し・南京玉すだれなどの伝統芸を、レッドリバー・マジシャンクラブの宮島昇様によってマジックをしていただき、楽しい時間を



過ごせさせていただきました。

その後は、定番となっています西要寺一道会会長の木和田喜博様によってクイズの時間で、参加者皆さまを笑顔していただきながら、最後を締めさせていただきました。



●その他

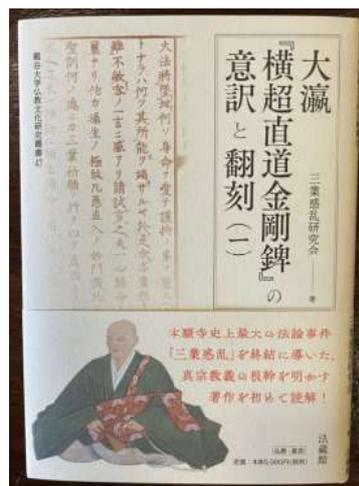
・能登半島地震災害義援金

新年会などで集まった義援金 6.671 円に西要寺から加算して 2 万円を西本願寺経由で募金しました。ご寄付をしてくださった門徒様に御礼申し上げます。なお、引き続き義援金をしてくださる門徒さんにおかれましては、随時、西要寺まで言っていただけると、西本願寺経由で募金しますので、宜しく願いたします。

・本を出版しました

住職の個人的なことですが、学生時代から勉強会（研究会）を続けていまして、龍谷大の先生方と共著で本を出版しました。しかしながら、内容は非常に専門的な内容なので門徒の皆様にはお勧めできるものではないのですが、3月8日に京都の老舗の仏教系出版社法蔵館より一般販売されています。

「大瀛 だいえい」という人が書いた書物『横超直道金剛鏢』で『おうちょうじきどうこんごうへい』と読みます。出版した本は、その大瀛さんの書物の「意識」と「翻刻（ほんこく）」です。まず、「意識」とは現代語訳で、「翻刻」とは書物の本文について読解の便をはかり、片仮名を平仮名に、歴史的仮名遣いは現代仮名遣いに改めて適宜、句読点を付したということです。少し話をしますと、江戸時代に「三業惑乱」と呼ばれる法論事件がありました。親鸞聖人の言われるのは、阿弥陀さまは私たちをそのまま救ってくださるのですが、当時、私たちの行いも救いの条件であるようなことを言い出す方がおられまして、それに対して浄土真宗の正しい教えを示されていかれたのが大瀛（だいえい）さんなのです。その大瀛さんの書物をこの度、意識し、



本文を少し読みやすくした本を研究会メンバーとともに出版したということ
です。詳細につきましては、直接、住職まで聞いてください。

◎西要寺行事予定◎

【定例法座】

3月22日(金)午後2時より

講師：西要寺住職

場所：西要寺本堂

【定例法座】

4月22日(月)午後2時より

講師：渡辺 顕代師(本願寺派布教使 長洲・長安寺住職)

講題：「仏さまの願い」

場所：西要寺本堂

【永代経法要】

5月21日(火) 22日(水) 両日とも午後2時より

講師：葛野 洋明師(龍谷大学教授 本願寺派布教使)

場所：西要寺本堂

ホームページ (saiyouji.com)



または ^{さいようじ}西要寺 と検索ください。

浄土真宗本願寺派

さいようじ
西要寺

661-0024 尼崎市三反田町1-7-27

TEL 06-6429-8241